

イエスは主なり



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 133号

祈り求める者に賜る聖霊

ルカ11章13節

木部安来



インドのサト・タルで、スタンレー・ジョーンズはヒンズー教の退修会方法を参考にして、クリスチャン・アシュラムという退修会を始めました。

私は2000年11月にインドのサト・タルで開催された70周年第10回国際クリスチャン・アシュラムにアシュラム連盟の理事長大石嗣郎牧師や、横山義孝牧師らと参加しました。

クリスチャン・アシュラムは、その精神、『イエスは主である』（1コリント12：3）のテーマのもとに生命の開拓者であり、神の思いが充滿したキリストの真理を求め、静聴 開心 充滿 献身 奉仕を追求しながら神のみ旨を実践をするために励み、キリストのアガペーの愛を実践できることを願う祈禱運動であります。祈りこそクリスチャン・アシュラムの呼吸であります。真理の御霊なる主への信頼が絶対必要であることを示され確信します。

スタンレー・ジョーンズが或る時に賀川豊彦師に『祈りとは何ですか』と質問しました。先生は『一言で言えば明け渡しです』と答えた。

これはキリストの御人格と支配する神の国への明け渡しです。即ち、キリストが父なる神に対すると同じ態度を取ることである。と言うのです。主イエスの敷設した路線に、祈りを合わせることによって、わたしたちは主の全知全能の贖いの愛に結ばれることです。なぜなら、それは、わたしたちが祈っている時に、何を求めるかを教えています。

聖霊は救いのために、充滿 献身 奉仕のために働く鋭利な刃で、最も必要なところに贖いのために働き、また、生活の衝動を制御し。喜びと感謝をもつための働きです。

聖霊は、潔い聖なるホーリー・スピリットであります。助け主 真理の導き手 慰め主 弁護者 カウンセラーでありパラクレートスなる御霊で、聖霊はわたしたちの承諾と協力のもとに自我（恣意的、放縱の自由）を聖別してキリストにある主権により自由を与え、隣人を愛させます（ガラテヤ5：13）御霊の法則は罪と死との法則から解放したのです（ロマ8：2）。

パウロは重ねて断言します。「御霊の実は、愛、喜び、平和 寛容 親切 善意 誠実 柔和 節制です」（ガラテヤ5：22～23）「…捕らえたとせず、捕らえようと追い求め…目標を目指して走り…神の賞与を得ようと努めている」（フィリピ3：13～14）聖潔成熟へのニードを満足させる動力を与えます。

「だが、あなたがたは、更に大いなる賜物を得ようと熱心に努めなさい。そこで、わたしは最もすぐれた道をあなたがたに示そう」（1コリント12：31）と教えている。「それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である」（同13：13）「天の父は求める者に聖霊を与えてくださる」（ルカ11章：13）

（元住吉キリスト教会牧師）

霊 想



「わが霊によるなり」

ホーリネス

池の上キリスト教会牧師

島津 吉成

バビロンに捕囚となっていたイスラエルの人々は、バビロンが倒れ、ペルシャの時代になると、再び祖国に帰ることができるようになりました。彼らは総督ゼルバベル、大祭司ヨシユアに率いられ、まず、神殿の再建に取り掛かります。ところが、サマリヤ人の妨害などに会い、工事は中止せざるを得なくなり、ついは一六年間も工事は中断してしまいました。この間に、捕囚から帰ってきた人々の意識は大きく変わってしまいました。彼らは、信仰に基づく祖国の再建という希望を忘れ、神殿に対しては無関心となり、自分の家、自分の生活を第一とするようになってしまったのです。このような状況の中で、ゼルバベルとヨシユア、そしてイスラエルの民を励まして工事を再開させたのが預言者ハガイとゼカリヤでした。

幻を見せられます。この四章に出てくる金の燭台の幻は、その中の五番目の幻でした。この金の燭台には七つのともしび皿があり、その一つの皿には七つの管（燈心）がありました。合計四十九の燈心を持つ燭台です。それはどんなに明るい光を放つ燭台だったことでしょうか。

暗い世界を照らす明るい光となる、ここにイスラエルの使命がありました。神殿の再建、それはただ自分たちの幸せのためではなく、世界に光を届け、神の恵みを証しするためでした。挫折し、諦めと無力感の中に沈み込んでいたイスラエルの民です。自分たちに委ねられた使命を忘れ、自分たちの生活のことしか考えられなくなっていたイスラエルの民。その彼らに必要なものは、神からの幻を見せていただくことだったのです。

しかし、これは当時のイスラエルだけの問題ではありません。何と、今の私たちの時代は闇に覆われていることでしょうか。そして、今ほど主の光が必要とさせているときはないというのに、何と教会はその使命を果たしていないことでしょうか。今こそ、私たちもこの幻を見せていただき、この幻に生きるお互いでありたいと思うのです。

ゼルバベルは、このとき、自分の前に立ちふさがる山のような問題に

直面していました。おそらく、ソロモンの神殿が破壊された後の石が、瓦礫の山のようになっていたのではないかと思えます。また、外にはサマリヤ人の妨害、内にはイスラエルの民の無関心という問題も抱えていました。工事が中断して一六年、彼は自分の無力さを痛感していたことでしょうか。金の燭台の幻は、このゼルバベルへの主の言葉でした。「これは、ゼルバベルへの主のことばだ。「権力によらず、能力によらず、わたしの霊によつて」と万軍の主は仰せられる」(ゼカリヤ四・六)。

権力とは、権勢、武力なども訳されますが、これは集団の力を意味すると言われます。これに対して、能力は個人の才能、力量という意味だと言われます。ゼルバベルは自分にダビデが持っていたような軍隊があつたら、自分にダビデのような力量があつたらと何度も思ったのではないのでしょうか。しかし主は、「それらにはよらない」と言われるのです。

権力、能力、つまり人の力によつては、神のみわざを成し遂げることにはできないのです。たとえどんなに素晴らしい働きがなされたとしても、人間の力によつてなされた働きは、その人の力しか見えてきません。そこからは、キリストの香りがするのではなく、その人の肉の匂いしか

しないのです。ですから、うまくいけば自分がやったと誇る。認められないとすぐにすねる。これでは、世の光としての使命を果たすことはできません。もくもくと煙を出すだけの燭台になってしまいます。

能力など、どうでもよいというのではありません。磨く努力をしなくてよいというものでもありません。大切なことは、これを自分が握り締めているのではなく、主にささげることです。「能力によらず」と明け渡すのです。そのとき、主が働いてくださいます。そして、「わが霊によるなり」というみわざが始まるのです。「人間の力」から「主の霊」への転換、ここにキリストへの明け渡しと献身があります。そして、ここに世の光としての使命を果たしていく道があるのです。

待 期

「関西アシュラムの

現状と将来」

小林 勝

関西アシュラムは今年秋の集会で第三十七回を迎えることになりました。その基本姿勢は故スタンレー・ジョーンズ博士の精神を守り、オリジナルな運動を守り通すことにあります。幸いにして関西アシュラムにはジョーンズ博士に直接指導を受けた牧師が多く現役で活動されており、一人一人が熱い思いを持って、

この運動を推進されており、様々な実生活の問題を抱えて参加する人々も祈りの細胞や聖書に深く尋ね、霊的体験をするなかで、聖霊によって新しく作り替えられて、実生活のなかで実を結ぶ経験を数多く体験されており、私たちの交わりは、正にコリント第一の手紙十三章に見られる「愛は最大の賜物」であるとの体験であり、日毎アシラムの兄弟姉妹を覚えて祈るなかで、ますます深まる交わりを賜っており、共に痛みを覚え、苦しみを感じ祈り合う中で、他の世界では味わうことの出来ない強い絆と主への結びつきを身をもって知る器とされています。私たちの交わりは決して見捨てることなくそのみ手の中で慈しみて育ててくださる主を覚えて、希望を持って歩む者の群れとされています。

ます。関西地方に住まれる牧師や教会員の方々の参加をお待ち申し上げております。

関西アシラムの特徴の一つは、年間を通じて関係する教会がそれぞれに独自に教会アシラムを開いておられることです。末広がりのアシラム運動がそれぞれの教会や地域で開かれている現状は、主の運動の広がりを感じます。関西アシラムに参加できない方々も教会や地域のアシラムに参加することにより、関西アシラムの祈りのなかにあることを覚えさせられます。委員会では、より広い会場でも多くの方々が参加できる方法も考えています。会場の場所や他のいくつかのグループがある場合などを考えますと、関西アシラムだけが借り切っている現在の場所が祈りと霊的交わりの場所としては最適なのではないかという意見もあります。また、次世代の指導者を育てて、この運動が更に発展する土台を築いておくことも忘れていません。幸いこの点も良い方々が与えられております。忙しい現状では、二泊三日の集会を持つことは困難ですが、一泊二日のアシラムを将来二泊三日に出来ればと願っております。ともかく一度おいでになってください。素晴らしい霊的な交わりを体験なさるでしょう。

(関西アシラム書記 小林 勝)

第二十二回横浜岡村教会
アシラム報告

安藤 脩



岡村アシラムは本年で二十二回

継続されて参りました。隔年毎に助言者と証し者を、教会外より迎えて開催致しております。紙面をお借り致しまして、今までご奉仕下さった先生、教友の方々に心より感謝申し上げます。

本年は池の上キリスト教会より、島津吉成先生において頂き七月十九日(土)～二十日(日) 主題「わが霊によるなり」(ゼカリヤ書四章一～十四節)と題して開催されました。当教会のアシラムは教育部が計画・主催致します。ご奉仕頂く人選は、一年前位に行ないますが、具体的な準備は新年度になってからです。今年には待望連鎖祈禱を七月六日

より十九日の二週間、コリントの信徒への手紙第二を毎日一章づつ読み行ないました。後半の一週間は、午前四時より午後十二時までの連鎖祈禱をもって備えました。

プログラムは、第一日目が午後三時より開会礼拝、開心の時、祈りの細胞、夕食を共にした後、ファミリア・アワー。第二日目は午前八時より静聴、二回目の祈りの細胞、福音の時としての主日礼拝、愛餐の時、労作の時、充滿の時で午後三時終了しました。一日目は十九名でスタートでしたが、福音の時は四十八名、最後の充滿の時まで参加した人は三十八名でした。

岡村アシラムの特徴はファミリア・アワーと労作の時を持つていることでしょう。ファミリア・アワーに於いては、神の家族としての交わりを深めることが基本ですが、年により異なります。昨年は会堂建築について率直な意見を出し合いました。今年には教会員同士、個々を更に良く知るといふ点に焦点が置かれ、クジで引いた質問に答えるという楽しい交わりをもちました。労作の時はパロ(今年は女王)の戴冠式に始まり、庭の草取りと室内の清掃に、汗を流しつつも、楽しく交わりつつ、心がかげつつ行ないました。助言者島津牧師のご指導に感謝しつつ報告とさせていただきます。

各地区アシュラム予定

●第三十七回関西アシュラム

とき・二〇〇三年十月十二日

(日) 十三日(月祝)

ところ・国際交流セミナーハウス

皇子が丘荘

助言者・小島十二師ほか委員

●第四十一回関東アシュラム

とき・二〇〇三年九月二十二日

(月) 二十四日(水)

ところ・山崎製パン箱根山荘

助言者・島 隆三師

●第八回富山アシュラム

とき・二〇〇三年十月六日(月)

七日(火)

ところ・インテックス大山研究所

助言者・横山義孝

●第三十八回九州アシュラム

とき・二〇〇三年九月二十二日

(月) 二十三日(火)

ところ・福岡黙想の家

助言者・小宮山林也師

追憶

★山岸英一兄を悼む

やすらぎ教会牧師 今井 壽

兄はアシュラムの古い摺友である。昭和三年移民の子としてブラジルで生まれ、カトリックで受洗。日米開戦に伴ない帰国、特攻隊志願中終戦。賀川豊彦先生に拾われ書生奉公。私が退職し単立やすらぎ教会

開設するや駆け第一号。以来三十余年、誠心誠意尽くしてくれた。彼は生来天真爛漫、特技である漫画はキリスト教界で稀有の存在で、荒地に咲く花のように人々を慰め明るく和ませた。彼は私の一教会を超えて多数誌に登場したが、突如天父に引き上げられた。二〇〇三年、弥生三月雛祭の日、七十五歳。

★柳沢 清兄の追憶

更生教会 堀内 清

兄のあのやさやかなほほえみのお姿を憶います。下谷教会で中二の時聖歌隊に参加した由。更生教会転会后、聖歌隊を指導しその産みの親となり、天来の美声で御奉仕して下さい。パラビジョン社を創立して広く福音伝道に力を尽くされ又関東アシュラムでは毎回讚美の御奉仕をして下さった。

千鶴子夫人とは平和な睦ましい生活のうちに、歩君、古都美さんの二人を恵まれた。二〇〇一年秋頃より闘病生活に入った。翌年小六、小四年の二人共受洗。御両親の感激。すべてなし終えて、十月二十二日、勝利のうちに召された。享年六十一歳、又逢う日迄。

★棚田恵子姉を偲んで

浄風教会 永田直子

「第一三二号日本アシュラム」の

消息覽で、二〇〇二年十一月召天された事を知り、深い思慕を抱いた。思い起こすと、早や七年前の関東アシュラムに於いて、姉妹が祈りのグループで座長を奉仕された際、熱き祈りと溢れる涙は、驚くばかりでした。又、委員として、立ち働きのお姿は、今も忘れ得ません。互いに再会を願いつつも、天国へと先立たれました。ハレルヤ。(ヨハネ一四・六)

★檜貝 幸姉の追憶

習志野独立キリスト教会

大保 富雄

檜貝幸姉は、昨年二〇〇二年十一月十七日に百歳と六ヶ月の生涯を終えられて、天の御国へと凱旋されました。檜貝姉は、私たち習志野独立キリスト教会の基礎を築かれた方で、召される数ヶ月前までは、礼拝にも欠かさず出席されておられ、教会の長老としての責任を果たしておられ、教会員一同の良きリーダーとして奉仕して下さいました。教会の中だけでなく、高齢にも係わらず、その信仰は各種の超教派の集会にも積極的に参加しておりました。故海老沢宣道先生始め日本アシュラムの先生方のご協力とお祈りによって、支えられて参りました。全ては、「イエスは、主である」との信仰によつて、今は、イエス様の懐に抱か

れて慰められておられると確信しております。皆様のご厚情を心より感謝致します。

日本クリスチャン・アシュラム連盟 会計報告書2002年(1月1日~12月31日)

収入		支出	
献金	城北アシュラム 30,000	アシュラム誌印刷代(129・130号)	36,200
献金	九州アシュラム 20,000	アシュラム誌送料	10,170
献金	函館栄光教会 20,000	アシュラム誌編集費	10,000
分担金	関東アシュラム 150,000	全国理事会会費(旅費・宿泊費含む)	306,498
分担金	関西アシュラム 70,000	理事長活動費	100,000
書籍代入金	69,700	擬込手数料他通信費	2,310
郵便貯金利子	159	事務用品	1,654
小計	359,859	小計	466,832
前年度繰越金	960,404	次年度繰越金	853,431
合計	1,320,263	合計	1,320,263

二〇〇三年会計報告は次号で。

編集後記

各地区秋の諸活動に祝福を祈りつつ No.133をお送りします。(Y)

東京都目黒区中央町1の21の10
日本クリスチャン・アシュラム連盟
振替口座 東京〇一〇〇一―四五五八
理事長 大石嗣郎
編集人 横山義孝
定価 一部60円 千80円